

# 葛城學思

創刊号

千葉中高校生徒有志会報

## 死につつまる「自主自律」

千葉中高は「自由」であるという。本日1日目を迎えた「千秋祭」は、文化祭実行委員という生徒組織を中心とした千葉高生の知恵と努力の結晶である。文化祭の自主性は、本校の誇りであり、これを支える文化祭実行委員会に敬意と感謝を表す。

残念なことは、普段の学校運営では、このような自主自律がしばしば抑圧されていることだ。

## 「生徒の自主性を尊重する」という詭弁

本校には、生徒の意見を集約し、代表する機関がない。この現状では、教師の意見が強大となりがちである。

教師へ反抗せよと主張するのはない。ただ、生徒の学校社会への参加が不当に妨げられていないか問題提起したいのだ。

服装に対する指導が緩いなどということ、本校は内外に名が

# 《生徒会制》で自主自律の推進を

高い。しかしそれは教師によって認められた「まやかしの自由」であって、真の自由の姿ではない。真の自由とは、与えられるものではなく、主体的に勝ち取り、意識的に守るものだ

教師の「生徒の自主性を尊重する」という言葉は、ともすると意図せずして生徒を懐柔する策となりかねない。いずれにせよ、千葉中高の自主自律への疑義が生じる。

## 会長会制と《生徒会制》

現状の問題点と解決策を考えてみよう。

一番の問題は、閉鎖的であることだ。会長会は、それぞれのHR会長の集合であり、そのほとんどの活動は、集まった会長の内からさらに選ばれた「執行部」によるものなので、一般生徒の意識との隔たりが大きい。会長会の活動を、知る機会と、かかわる機会とが極めて少なく、また仮にも本校の代表の選出から大多数の生徒が締め出される現状は、決して好ましくない。《生徒会制》では全員が活動に関わることになるため、より活発な批判や活動が期待できる。投票の有無は、さながら

	会長会制	《生徒会制》
投票	無 (各 HR 選出)	有 (全校投票)
予算権	無 (会費無)	有 (会費有)
活動の監査	無	有 (監査院)
中高の連携	無	有 (統合)

ら生徒の明確な信認の有無であるからだ。

## 生徒の声

部活動や文実など生徒の自主的な活動には、資金が必要なものも多い。現状では予算編成に、生徒は全く関われないため、委縮しがちな生徒活動が少なからず存在する。《生徒会制》における予算権とは、部活動や文化祭などの生徒諸活動の費用の分配である。現在PTA会費などで賄っている分を、生徒会費で行うことで、生徒活動の活性化を図る。

「会長会は学校社会に必要な活動を行っています。一番わかりやすい例が、登校時に通学路で行う呼びかけです。不可欠な活動ですから、やはり全校生徒の参加が必要であると思います。」現在、会長会議長のAさん(高一)はこう語る。Aさんは中学校で生徒会長を務めた経験がある。その経験から「より多くの人に参加すれば、活動がより認知され、より自主的に活発な活動をすることができそうです。」と言う。

活動の監査は、どのような組織においても、向上と腐敗の防止において重要である。会長会にはそのような機能がなく、かつ年度替わりでのノウハウの断絶があり、活動の向上が実現しがたい。独立した監査機関が必要である。

「会長会は学校社会に必要な活動をこう評価する。『会長会は、朝の通学路での呼び掛け運動など学校のための活動を行っています。しかし、会長会是一般の生徒とはかけ離れています。投票で選出することで、学校のために頑張っている仲間を認めてあげたいですね。』」

千葉県立高等学校として初めての「併設型中学校」がある本校。授業や部活動では少しずつ連携が進んでいるが、まだ隔たりは大きい。生徒の代表たる生徒会が連合すれば、

「Iさん(高三)は、「生徒活動の盛んな都内の学校を見ると、とても楽しそうです。千葉高生が本当に自主自律的に動けば、千葉高は、より楽しい学校になると思います。その一歩として、生徒の自由を追求する強い組織、生徒会を作るといいと思います。」

Wさん（高一）は、「学校社会の形成には、全員の生徒が参加しなければおかしいです。」と主張する。「同じ学び舎で生活する以上、みんな助けられたり助けたりすることが多々あります。そのつながりを広げたものが社会ですから、学校社会を運営には、みんなが集まった組織が必要です。千葉高の現状は、多くの人がその組織に関わりを持ってない構造になっています。千葉高は40分の1の生徒だけが運営しているのです。」

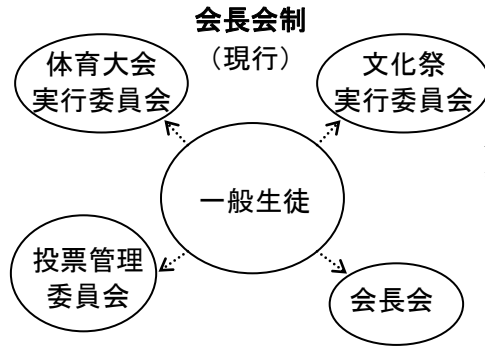
前会長会副議長で、会長会三学年代表のHさん（高3）は、「本校の生徒会が投票によって廃止されたから半世紀近くになります。以来いくたびか再興の兆しがありました。だが、校内の機運が今ひとつ上からず、ことごとく頓挫しました。しかし、今の社会は、生徒会廃止当時とは全く異なります。当時の生徒は、自由を追い求めて生徒会を廃止しましたが、生徒会がないことがいつしか自由を限られたものにしてしまったのです。本校の自由への追求は今昔変わりありません。自由を求めて生徒会を復活させるのは今でしょう。」と話す。

## 千葉中高の改革試案

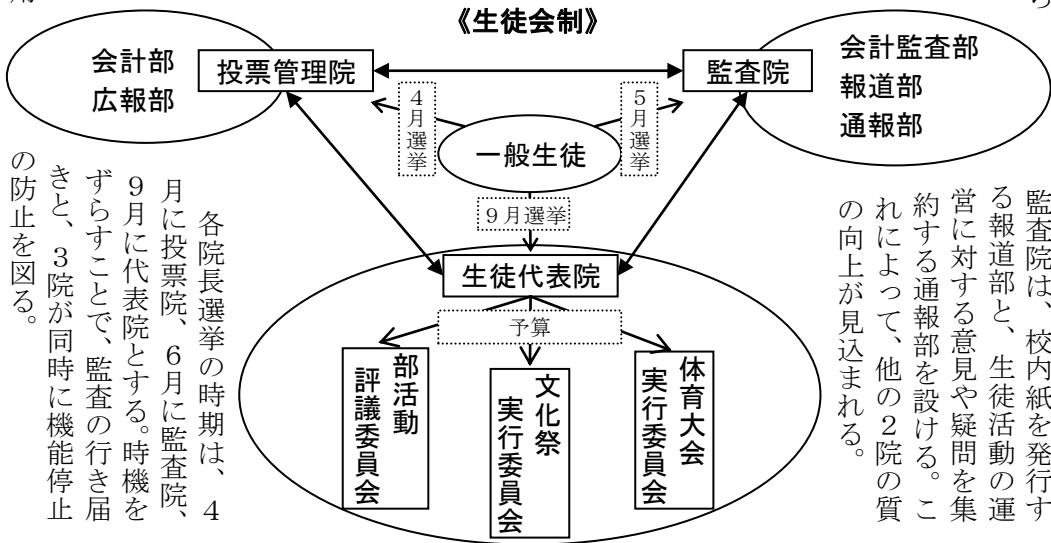
現行の会長会制は、各HRでの選

出のみに支えられている。会長会制は、多くの生徒がスペシャリストになるという点では優れているが、各組織の関係が希薄になりがちだ。その弊害が、閉鎖的な会

長会である。



## 《生徒会制》



生徒の監視という観点から、代表院に属することになるが、従来の独自性は守り、質の高さを維持する。監査院は、校内紙を発行する報道部と、生徒活動の運営に対する意見や疑問を集約する通報部を設ける。これによって、他の2院の質の向上が見込まれる。

会長会の欠点である「監査」の要素を補いつつ、より開かれた組織とするには、生徒代表院（いわゆる生徒会）、監査院、投票管理院に分権化し、3院の長・副長の組を全校生徒による投票によって選出する生徒会制が望ましい。2人組を選出する方式は、立候補者の公約の質と、実現の可能性を高める効果が期待でき、同様の方式が麻布高校で採用されている。

文実・体実とは、予算の配分や一般

## 《生徒会制》へのプロセス

《生徒会制》への移行は、投票管理委員会規程第7条により「生徒の総意の決定」が必要なので、同規定に基づく「全校投票」が行われる。すなわち、「生徒団体」が高校生生徒の5分の1以上の署名を集め、二者択一の投票を行い、その有効投票数の3分の2以上の賛成を取る。

「生徒団体」とは、委員会や部活動のことで、有志会は該当しない。代わりに有志会協賛団体のコンピュータ研究部を中心として、署名活動を展開する予定だ。

全校投票で可決されたら、今年度中に準備委員会を発足させ、来年度からの実施を目指す。

葛城學思は、「生徒会制」を目標とする「千葉中高生徒有志会」の会報です。本紙へのご意見・お問い合わせは、主筆・有志会幹事長H（高3）、副幹事長I（高3）、学年広報係K（高一）、または [chibajshs@gmail.com](mailto:chibajshs@gmail.com) へお寄せ下さい。

有志会員を募集しております。賛助していただける方は、右までご連絡ください。

本資料は、校内で配布した会報から、名前などを削除したものです。

各院長選挙の時期は、4月に投票院、6月に監査院、9月に代表院とする。時機をずらすことで、監査の行き届きと、3院が同時に機能停止の防止を図る。投票院選挙は代表院が行う。